

淀川水系
志賀・大津圏域河川整備計画

計画概要説明資料

平成 24 年 3 月

滋 賀 県

凡 例

- 河川整備計画を策定する河川
- 国直轄管理区間
- 治水ダム (計画)
- 農業用ダム
- 自然再生
- 河川浄化
- 圏域界



目 次

1. 圏域、河川の概要	1
1.1 志賀・大津圏域の概要	1
1.2 河川の現状と課題	17
2. 河川整備計画の目標に関する事項	44
2.1 計画対象期間、計画対象河川	44
2.2 計画の目標	46
2.3 整備実施区間・調査検討区間・整備時期検討区間	50
3. 河川整備の実施に関する事項	52
3.1 河川工事の目的、種類および施工場所	52
3.2 河川の維持の目的、種類および施工場所	64
3.3 その他河川の整備を総合的に行うために必要な事項	68
4. 超過洪水時の被害を最小化するために必要な事項	70
4.1 平常時における連携強化	70
4.2 洪水時の連携強化	70
4.3 水防・避難体制の強化	71
4.4 水害に強いまちづくり	71
4.5 地域防災力の向上	72
4.6 超過洪水時の減災効果のある河川管理施設の整備・保全	72
5. 付則資料（志賀・大津圏域位置図）	73

1. 圏域、河川の概要

1.1 志賀・大津圏域の概要

志賀・大津圏域は、滋賀県の西南部に位置し、大津市の安曇川、鴨川の流域と瀬田川以東を除く地域を対象としており、圏域全体が大津市に含まれています。圏域は、南北に長く、東西に短い特徴があり、その面積は約 203km²となります。圏域には、一級河川が全部で 51 河川あり、比良山地、比叡山地などに水源を発生し、東西に流れ、琵琶湖へ直接流入する一級河川が 36 河川あります。



図 志賀・大津圏域河川位置図

河川整備計画（本文）

（地形・地質）

滋賀県の地形は琵琶湖を中心として周囲を北に野坂山地、東に伊吹山地、鈴鹿山脈が、西に比良山地、南に田上信楽山地が取り囲み、全体として盆地地形を形成しています。圏域の地形は、南北に長く急峻な山地が琵琶湖に迫っているため、河川の流路延長は短く、急流河川の様相を呈しており、下流部での低平地（三角州、扇状地）については大きな発達が見られません。また、高島市マキノ町から大津市にいたる断層帯である琵琶湖西岸断層帯のうち、比良断層や比叡断層などが圏域に位置しており、比良山地・比叡山地の西斜面を南北に走る花折断層は、顕著な断層谷を形成しています。

圏域の地質の特徴は、圏域中央部に中生界の花崗岩類から成る比良山麓複合扇状地や古琵琶湖層群の火山灰から成る堅田丘陵があります。圏域を流下する河川の上流部には、比良山地・比叡山地・醍醐山地が連なっています。これらの山地は、主に風化しやすい地質である古生界の砂岩や粘板岩、中生界の花崗岩から形成されており、侵食による土砂流出が多い原因となっています。

出典・根拠

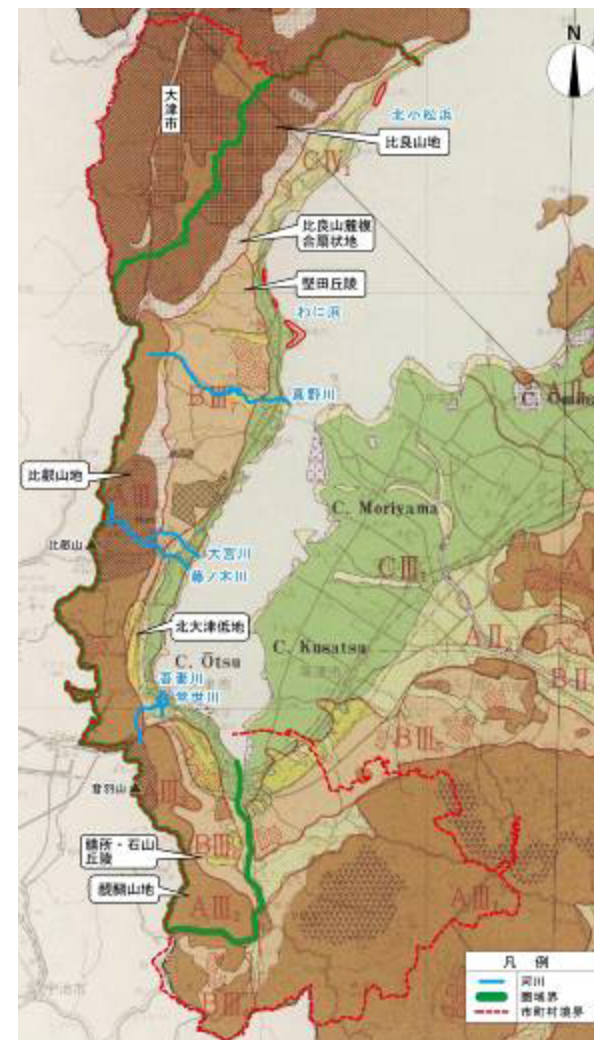


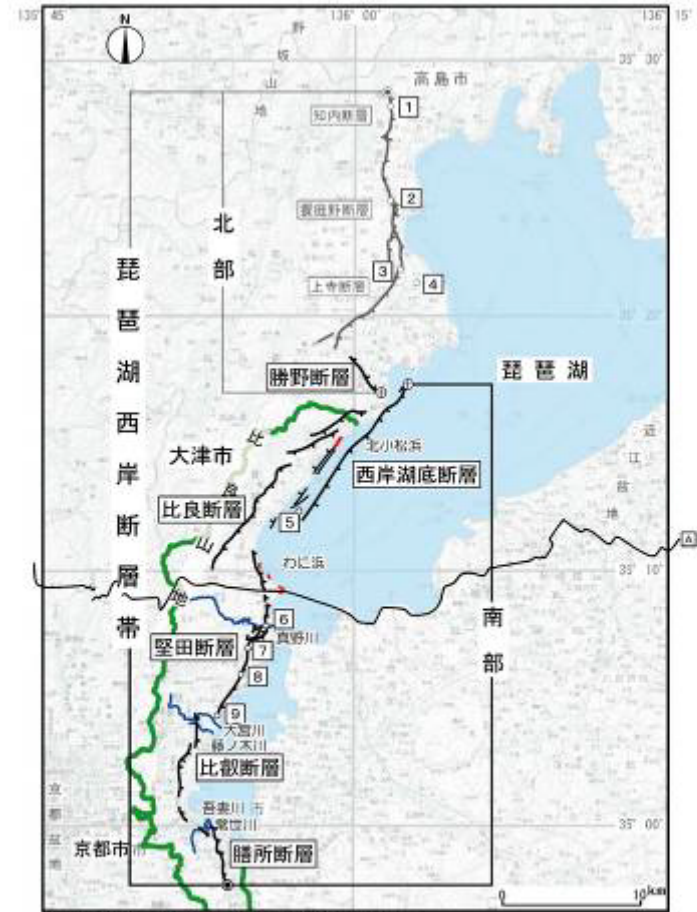
図 志賀・大津圏域土地分類図

出典：国土交通省 国土調査課「M²-Z」（昭和50年発行）



図 花折断層帯位置図

出典：滋賀県ホームページ 防災管理局 地震対策情報



琵琶湖西岸断層帯の位置と主な調査地点

1：石盛地点 2：弘川地点 3：糺盛地点 4：針江地点 5：比良沖地点
6：真野地点 7：本堅田地点 8：衣川地点 9：比叡辻地点

A：反射法弾性波探査測線（文献6（文部科学省研究開発局ほか、2007）

●：断層帯の北端と南端 ⊕：北部の南端・南部の北端

新層の位置は文献5、7、11（中田・今泉編、2002；宮内ほか、2005；堤ほか、2005）に基づく。
基図は国土地理院発行数値地図200000「岐阜」「名古屋」「宮津」「京都及大阪」を使用。

図 琵琶湖西岸断層帯位置図

出典：滋賀県ホームページ 防災管理局 地震対策情報

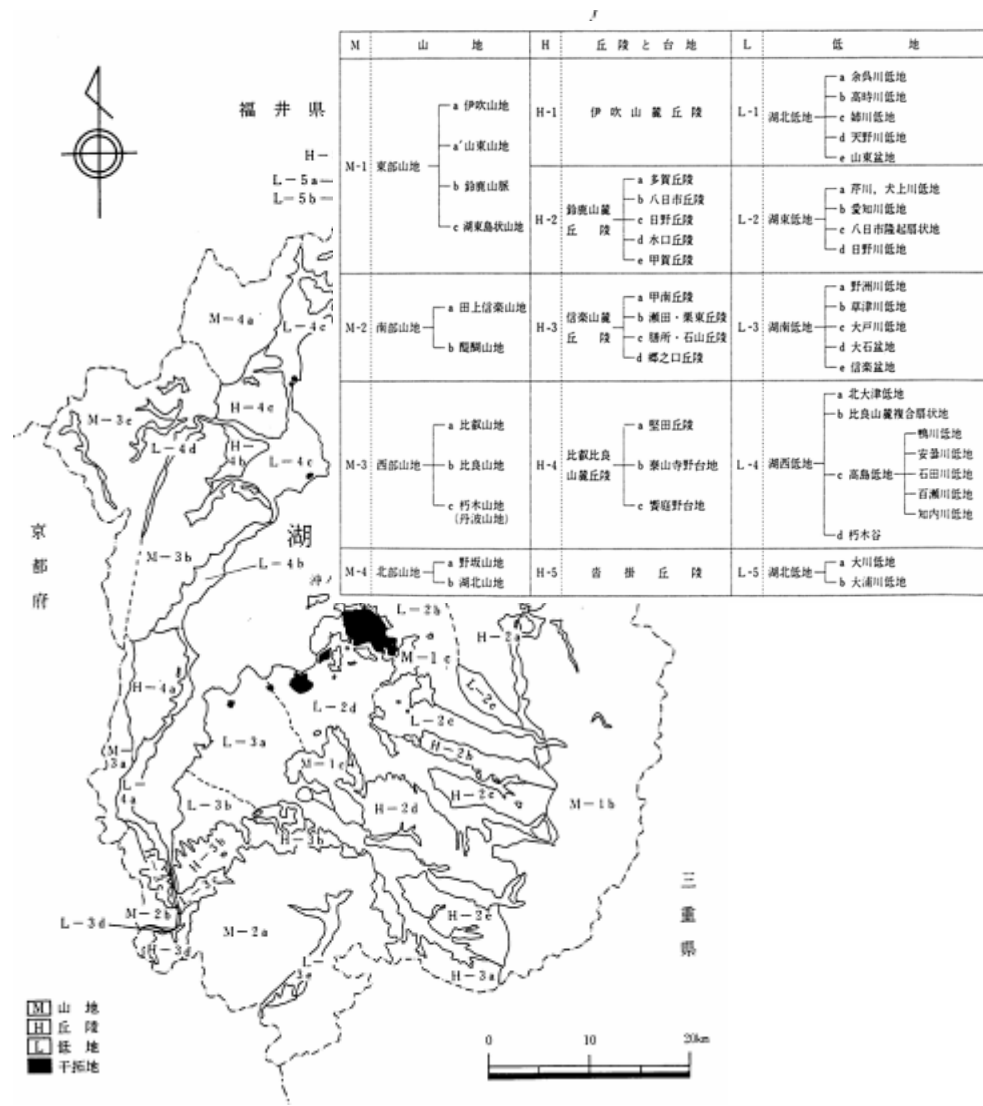


図 滋賀県地形区分図

出典：滋賀県の自然 / (財) 滋賀県自然保護財団)

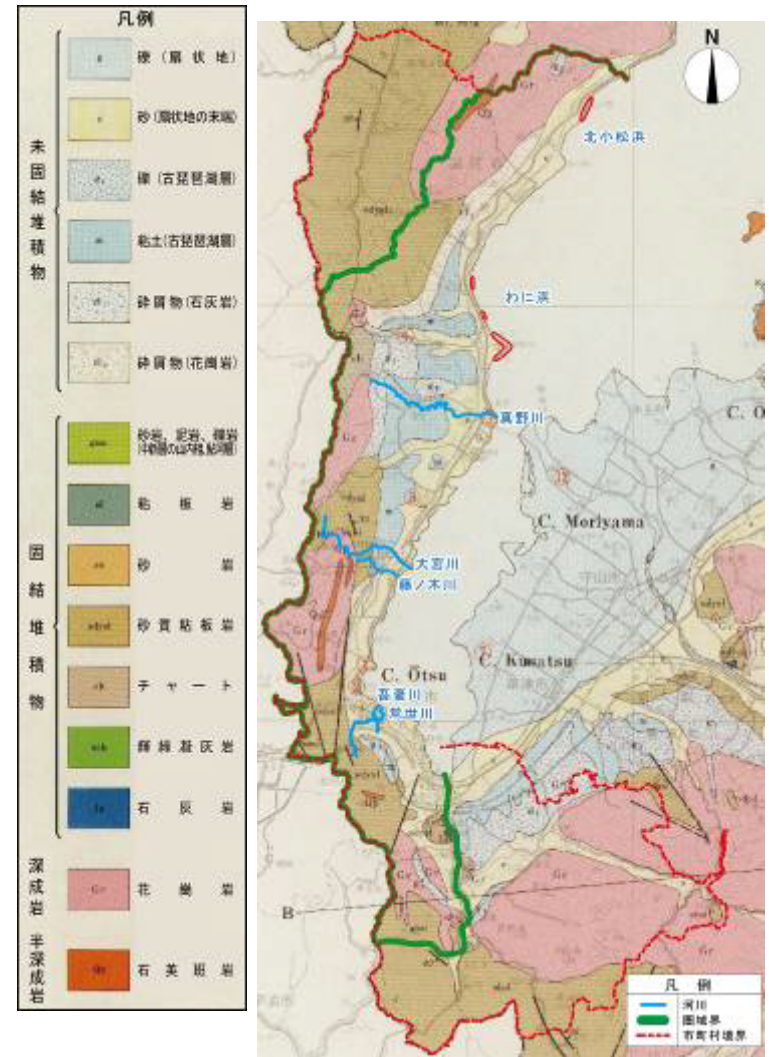


図 志賀・大津圏域地質図

出典：国土交通省 国土調査課(昭50年発行)

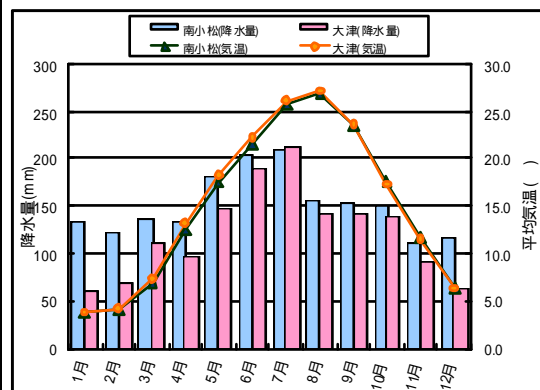
河川整備計画（本文）

（気候）

日本列島のほぼ中央に位置する滋賀県は、周囲を高い山々で囲まれており、日本海型気候区（北陸地方）、瀬戸内海型気候区、東日本型気候区（東海地方）が接した位置にあります。このため、滋賀県の気候は、温暖な東日本・瀬戸内型と冬季に雪による降水量が多い日本海・中部山岳型の気候を相備えながら、琵琶湖の気候調節作用の影響を受けるため、県全体を一気候で特色付けられません。

志賀・大津圏域は、琵琶湖西岸の南北に細長い形状のため、北部と南部で気候が異なります。近年 10 年間の気温および降水量をみると、圏域北部の南小松では年間降水量が 1,802mm、月別平均気温が 14.8 となっており、冬に降水量（積雪量含む）が多い日本海型気候となっています。一方、圏域南部の大津では、年間降水量が 1,463mm、平均気温が 15.0 となっており、南小松に比べると雪の影響を受けにくく、また年間降水量が少ない瀬戸内海型気候となっています。

出典・根拠



出典：気象庁ホームページ 気象統計情報

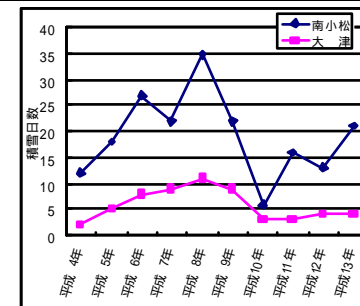


図 積雪日数
出典：滋賀県気象年報



図 観測所位置図
出典：彦根地方気象台ホームページ

河川整備計画（本文）

（自然・景観）

圏域北部の比良山や圏域中南部の比叡山をはじめとする山並みや琵琶湖湖岸一帯は、昭和25年にわが国で初めて指定された国定公園である「琵琶湖国定公園」に属しており、豊かな自然環境や動植物の宝庫となっています。

河川には、ウツセミカジカ（絶滅危惧 類）などの貴重な種やトウヨシノボリなどの魚類が生息しています。鳥類では、ヒドリガモやカワセミなどが生息し、植物では、ガマやヨシが繁茂しています。

また、琵琶湖や比良・比叡の山並みを中心とした美しい景観は古くから多くの人々に親しまれており、その自然環境と歴史が一体となった特色ある景観を伝えてきました。その1つである近江八景¹のうち7つが志賀・大津圏域に属しています。

大津市は、これらの時代を超えて変わらぬ価値を持つ自然景観や歴史的景観を後世に継承していくために、平成17年3月28日付けで、景観法に基づく「景観行政団体」となり、景観形成推進に取り組んでいます。

1) 近江八景

近江八景とは、瀬田の夕照、石山の秋月、粟津の晴嵐、三井の晩鐘、唐崎の夜雨、比良の暮雪、堅田の落雁、矢橋の帰帆などの琵琶湖の景勝をいいます。（下線は圏域内にあることを示す）

出典・根拠



図 志賀・大津圏域指定公園位置図

出典：滋賀の環境 2010（平成21年版 環境白書）